

合理的配慮と学びのユニバーサルデザイン

講師：早稲田大学大学院教職研究科 教授 高橋 あつ子

平成28年 10月15日(土)
弘前医療福祉大学 セミナー室
参加人数：47名 記録：藤田

1 はじめに

今日の研修のねらいと流れの確認及び参加者の自目標を設定。

参加者が今日1日で何を学び取るのか、達成したことがわかる(行動に直結できる)

目標を1~2分でたて、近くに座った2~3人組で簡単な自己紹介と目標紹介をした。

- ①目標を言語化
- ②達成の可否を考え可視化(書く)
- ③相互交流

近くに座った2、3人は学びのパートナーとしてお互い励まし合いながら頑張れる。(協同)

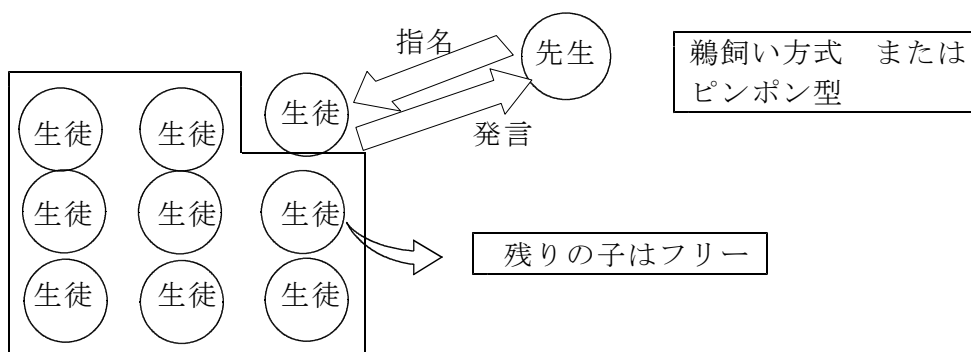
21世紀型授業への転換を参加者にも意識させる

2 21世紀型への転換と特別支援教育

[20世紀型]

眠気に負けやすい生徒 → 学級で請け負う(お客様でいいなら学級にいても良い)
ASD(自閉症スペクトラム)の診断を受けた → 他の特別支援学級を想定する

差別的取り扱い? 少なくとも特殊教育の発想



[21世紀型]

- ・ 眠気に負けやすい生徒に眠気が襲ってきたらどうするか?

顔を洗う・水を飲む・隣の人につついてもらう・伸びをする・バランスボールに座る・竹踏み・自転車こぎ・立つ・歩く・トランポリンでとぶ・好きな匂いをかぐ・キンカンを鼻の下にぬる・ツボを刺激等々

その子にあった解決方法を選ばせる!

- ・ 授業はピンポン型からバレーボール型へ(横に広げる)

3 合理的配慮

合理的配慮は優遇ではない。土台にのるための変更調整である。

- ・授業が**公正な競争の場**になるように、学ぶための土台にみんなを立たせる。
そのために、足場かけをする。

↓
例えば、「憲法について話し合う」という課題に対して、読めない子がいたら、「読み上げソフト」を貸して読めるようにする。みんなが憲法を読めるという土台にのせて、話し合いを進める。読み上げソフトを貸す事が足場かけ。

この足場かけが合理的配慮になる。

↓
合理的配慮によって目標達成の力も伸びる。(可能な最大限まで発達させる)
周りの児童、生徒の力も伸びる。(場の共有だけでは×)

- ・**公正な競争の場** = 形(環境)の平等ではない。質の平等。

↓
理由のある特別扱いをしても平等



4 学びのユニバーサルデザイン(UDL) ~授業のUD化を超えて~

- ・授業のユニバーサルデザイン化
→ 先生のためのユニバーサルデザインになりかねない
- ・たくさんの足場かけを用意し、学びやすい体験を早い時期に提供することで、子どもが自ら要求するようになる。→ 自己調整学習
- ・UDL
発信者に方略を示す(きちんと伝わる指示や、授業の教示も同じ)
相互作用で解決する(コミュニケーションは調整力があれば成立する)
- ・授業の構造化
物理的な構造化(空間や座席で分ける)
時間的な構造化(始めと終わりの明確化・集中度に見合った時間配分)
活動の構造化 (VAK感覚の使用を循環)
↓
視覚・聴覚・運動感覚
- ・多様な学び方を発想する → 3通り(視覚・聴覚・運動感覚)の指導法を用意
学び取っていない子がいたら、次のカードを引けるように考える

【高橋あつ子先生のおすすめ教材】

○ Access Reading (ウェブサイト)

障害により、読むことに困難のある児童生徒に向けた教科書・教材の電子データや同じく読むことに障害のある人に向けた書籍データを提供している。

○ 読み上げソフト「タッチ&リード」 株) ataclab / エイタックラボ

○ リコーダー用演奏補助シール「ふえピタ」 / アイディア・パーク

○ リーディングトラッカー (魔法の定規) / キハラ

○ ソニック スーパーコンパス「くるんパス」